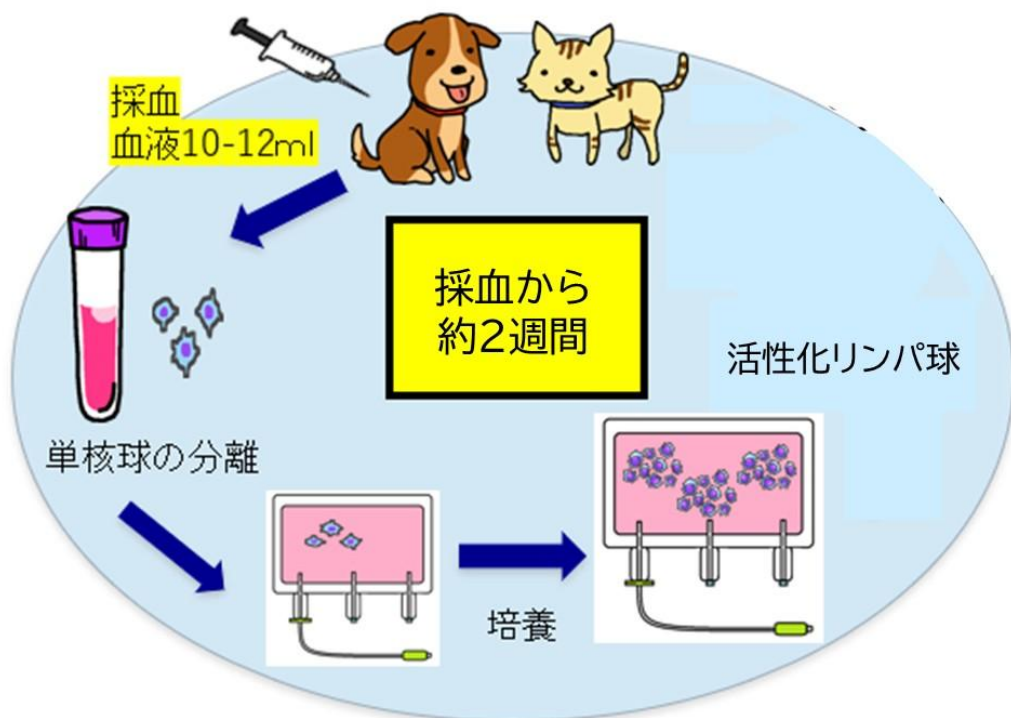


活性化リンパ球培養キット

活性化リンパ球培養キットは、イヌおよびネコの末梢血から簡便に活性化リンパ球を培養するキットです。



特長

簡易クリーンルームで可能

- ・ 特別な設備や厳格な環境が不要

オールインワン

- ・ キットのみで培養のすべてが可能

ディスポーザブル

- ・ 再使用による汚染がない



一般の病院でも院内製剤可能

静脈点滴だけの低侵襲性

国内外で他に例を見ない先導性

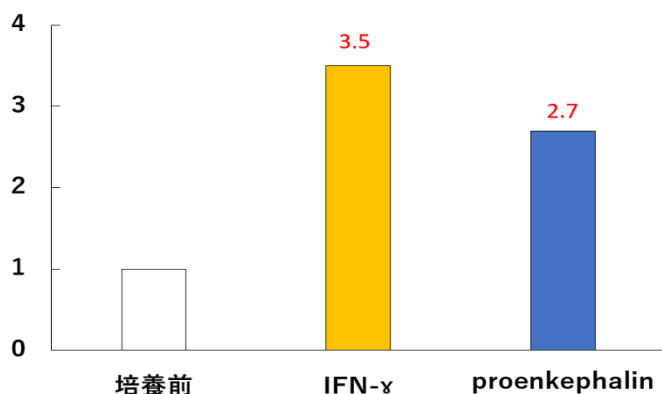
構成内容

培養バック、培地、ピペット類まで培養に必要なすべてをセットにしたオールインワン培養キットです。

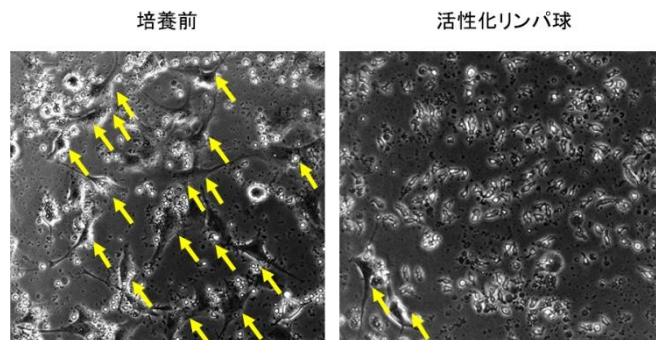
アプリケーション例

弊社の活性化リンパ球培養キットを用い、イヌの末梢血を培養しました。得られた培養細胞では、がん細胞への攻撃能力を高める IFN- γ や鎮痛作用を発揮するオピオイドの一つである proenkephalin の遺伝子発現量は培養前と比べそれぞれ 3.5 倍、2.7 倍に上昇しました(図 1)。また、この培養細胞をがん細胞と一緒に培養するとほとんどのがん細胞が死滅しました(図 2)。これらのことから、増殖した細胞からオピオイドが産生されるとともに、IFN- γ 産生も増加してがん細胞の死滅能力が上昇していることがわかります。

活性化リンパ球の遺伝子発現量(図 1)



がん細胞への殺腫瘍活性(図 2)



(左図：紡錘形のがん細胞(黄矢印)が増殖、右図：がん細胞が死滅)

文献、発表

1) Mitani K, Ito Y, Takene Y, Hatoya S, Sugiura K, Inaba T. Quality of life-improving effect of autologous ex vivo expanded cytotoxic and opioid-producing lymphocytes for dogs with cancers. Vet. Immunol. Immunopathol. 2021.

2) 三谷康介、伊藤有紀、竹根幸生、稲葉俊夫、杉浦喜久弥、イヌ活性化リンパ球培養キットによるオピオイド産生性細胞の分離とその臨床応用結果の解析 日本獣医再生医療学会 第 15 回年次大会 2020、横浜

3) 遠矢翔太、三谷康介、伊藤有紀、稲葉俊夫、岡田邦彦、イヌのがん免疫療法および脂肪幹細胞療法における飼い主による QOL 評価、第 160 回日本獣医学会学術集会 2017、鹿児島

株式会社 J-ARM 本社

大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 5-9-27 ラ・ルーチェ阿倍野 2F TEL&FAX : 06-7890-5959